

十二日夕刻戦災のため悉く烏有に帰したことは誠に残念でありました。

牛込総鎮守

赤城神社略記

赤城神社社務所

平八録殿守 赤城神社社務所

御鎮座地 東京都新宿区赤城元町一番十号

御社号 赤城神社

昔は赤城明神又は赤城大明神等と云はれたこともありましたが、明治維新のときに今の御社号に改めました。

例祭日 九月十九日

御祭神 岩筒雄命 いわつつのおのみこと

岩筒雄命は伊邪那岐命のお子神である火の神、迦具土神よりお生まれになった神様で、千葉県香取神宮の御祭神、経津主神ふつぬしのかみの御親神に当たらせ給い、智、仁、勇のすぐれたお力をお持ちになり、殖産興業、厄難消除、学問芸術の神又特に火防の神として高い御神徳を発揚されます。

御由緒

当神社は後伏見天皇の正安二年（西紀千三百年）の創祀にして、群馬県赤城山麓大胡の豪族大胡彦太郎重治牛込に移住の際、本国の鎮守であった赤城神社の御分霊をお祭りしたものと伝えられ、最初は牛込早稲田村田島（今の早稲田鶴巻町元赤城神社の所在地）に鎮祭したるを寛正元年（西紀千四百六十年）に大田持資（道灌）神威を尊び牛込台（今の牛込

見付附近）に遷し奉り、其の後弘治元年（西紀千五百五十五年）に至り、大胡宮内少輔（牛込氏）の尊信特に深く現在の地に遷し奉り、徳川幕府に至りては江戸大社の列に加え牛込の総鎮守と崇められ、祭礼の際に於ける山車練物等は江戸城の竹橋から内堀に入り半蔵門に出ることを許されたと云われております。

御社殿

御社殿は大胡氏の尊信により現在の地に建てられた事は江戸時代の地図によっても明らかでありますが、天保十三年三月七日午の刻（正午）寺町（現神楽坂六丁目）附近から出火、南風のため類焼の厄にあい炎上しその後復興された神殿も「拝殿の内部は格天井を組み花鳥を描き欄に唐土日本の人物及び奇禽異獣を彫る刀の妙神に入る」と「新撰東京名所図会」にも載る如く実に壮麗なる御社殿でありましたが、昭和二十年四月

十三日夕刻戦災のため悉く烏有に帰したことは誠に残念でありました。

終戦後昭和二十三年以来復興の計画をたて昭和二十六年十月十六日先づ本殿の竣工を見御遷座の盛儀を行い、その後かねて懸案であった拝殿、幣殿の建設につき昭和三十三年七月に至り着工、計画樹立以来十有余年を経て昭和三十四年五月鉄筋コンクリート造丹塗の拝殿、幣殿が完成したものであります。